

第IV部門

地方都市におけるバス交通システム導入による都市内回遊行動活性化評価に関する研究

立命館大学 正会員 春名 攻
 立命館大学 正会員 銭 学 鵬
 日本貨物鉄道株式会社 正会員 米田 貴浩
 立命館大学大学院 学生員 ○ 山見 侑輝

1. はじめに

近年の地方都市においては、モータリゼーションの進展と郊外大型商業施設の立地とが相まって、各都市とも、中心市街地衰退が顕著であるといわれている。また、主要な公共交通機関であるバス交通においても、平成14年の道路運送法改正の影響もあり、利用者の低下、事業者の経営悪化、サービスの低下の悪循環を辿っている。バス交通サービス低下に対し、2007年10月1日より「地方公共交通活性化及び再生に関する法律」が施行され、バスを含めた地域公共交通の必要性が再認識されている。

本研究では、地方都市中心市街地と郊外部の日常行動に着目して、相互の整備が相乗的な発展を目指し、訪問者も含む住民の都市内回遊行動活性化に結びつくようなバス交通システム整備の検討をしていくこととした。

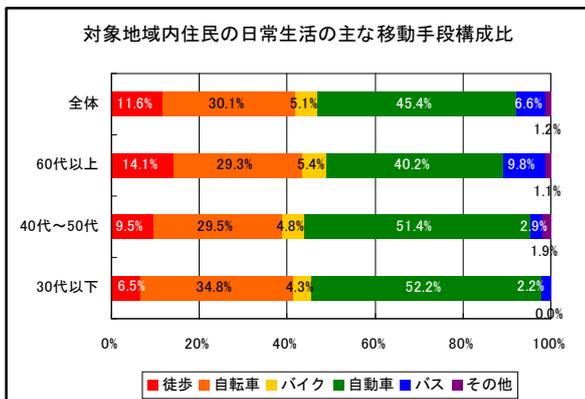


図-1 日常生活の主な交通手段

2. 対象地域の現状

対象地域である滋賀県草津市は、近年、京阪神のベッドタウンとして中心市街地のマンション開発や丘陵地への大学の移転などにより、人口が増加し、発展してきている。しかし、急な発展に都市整備が追いついていない状況となっている。さらに、郊外地域には大型商業施設が相次いで立地している。また、地域内における主要な公共交通

機関であるバスは利用者が年々減少傾向にある。そこで、住民に対して現状における日常生活の移動手段についてアンケート調査を行った。結果をと図-1に示す。自動車や自転車が主な移動手段であり、バス利用がとても少ないことがいえる。

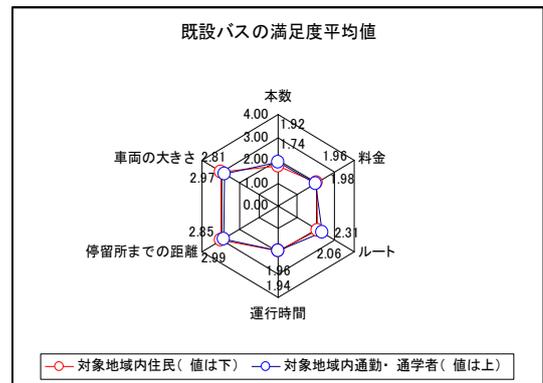


図-2 既存バスへの満足度

さらに、既存バスへの満足度の結果を図-2に示す。既存バスサービス内容が利用者のニーズを満たしておらず、対象地域が公共交通の貧弱な地域であることが考えられる。

そして、自動車に依存した生活行動、中心市街地と郊外部の商業特性、自動車利用に便利、不便な立地条件から両地域間において回遊性に乏しいことが考えられる。

3. 本研究の検討内容

対象地域の現状をふまえて、バス交通システム整備の検討を行った。検討内容は新たなバス路線の設定、運賃や運行本数などのサービス形態、バス車両の大きさなどの運行形態である。また、バス利用、回遊促進のためのバス交通システムに付加したサービスについても、バス無料券配布、ICカード導入、手荷物宅配サービスを提案し、導入を検討した。そして、バス交通システム整備の検討による都市内回遊行動の変化を分析、評価していく。

表-3 第一目的商業施設地域が中心市街地
ときの交通手段選択確率

	平日		休日	
	整備前	整備後	整備前	整備後
バス	5.0%	25.5%	5.0%	24.4%
自動車	73.9%	51.6%	73.9%	64.1%

表-4 第一目的商業施設地域が中心市街地
ときの回遊確率

	整備前	整備後
平日	36.6%	42.8%
休日	41.9%	48.3%

表-5 第一目的商業施設地域が中心市街地
ときの回遊時における交通手段選択確率

	平日		休日	
	整備前	整備後	整備前	整備後
バス	4.2%	43.8%	4.2%	27.6%
自動車	75.0%	46.9%	75.0%	60.3%

4. 都市内回遊行動分析、評価

本研究では、バス交通システム導入の検討とともに、整備前後における買物行動の変化に着目し、分析を行った。分析内容は平日と休日に分け、中心市街地と郊外部の商業施設地域間の回遊確率、施設訪問時、回遊時における交通手段選択確率について地域住民と商業施設訪問者に対するアンケート調査結果をもとに分析した。分析結果を表-3から表-8に示す。

バス交通システム導入により、商業施設訪問時、回遊時においてもバス利用確率が増え、自動車利用確率が減少していったことがいえる。特に、回遊時はバス利用確率が大幅に増加した。また、付加サービスの導入などにより第一目的商業施設からすぐに帰宅する人が減少し、回遊する確率が増加したと考えられる。中でも、郊外部から中心市街地への回遊が増加した。

5. おわりに

本研究ではバス交通システムを整備し、地域住民、商業施設訪問者にとって魅力あるバス交通システムを提案できたことにより、都市内での回遊行動の促進につながることができたと考えられる。

表-6 第一目的商業施設地域が郊外部のとき
の交通手段選択確率

	平日		休日	
	整備前	整備後	整備前	整備後
バス	4.4%	14.2%	4.4%	18.1%
自動車	73.4%	54.0%	73.4%	59.9%

表-7 第一目的商業施設地域が郊外部のとき
の回遊確率

	整備前	整備後
平日	29.5%	36.1%
休日	33.6%	42.1%

表-8 第一目的商業施設地域が郊外部のとき
の回遊時における交通手段選択確率

	平日		休日	
	整備前	整備後	整備前	整備後
バス	7.9%	30.8%	0.0%	35.2%
自動車	76.3%	53.8%	81.1%	59.3%

今後の課題としては、交通手段選択の要因を地域住民、来訪者の潜在意識の面を含め分析すると共に、公共交通に対するニーズ、他の公共交通機関との連携、事業性について検討していく必要があると考えられる。また、公共交通整備と共に訪問する施設も魅力的なものにするために中心市街地、郊外部の相互的整備を行っていくことにより、さらなる都市内における回遊行動の活性化につながると考えられる。

【参考文献】

- 1) 米田貴浩：地方都市魅力向上を目指したバス交通システム導入構想に関するシステム論的分析—中心市街地域整備と郊外地域整備の相乗的・総合的開発効果—，立命館大学修士論文，2009.3
- 2) 山見侑輝：利便で充実した都市内回遊行動実現化を目指したバス交通システム整備に関する研究，立命館大学卒業論文，2009.3
- 3) 脇田真宏：草津市郊外地域の都市施設間・回遊性向上のための地域内シャトルバスシステム導入に関する研究，立命館大学卒業論文，2008.3